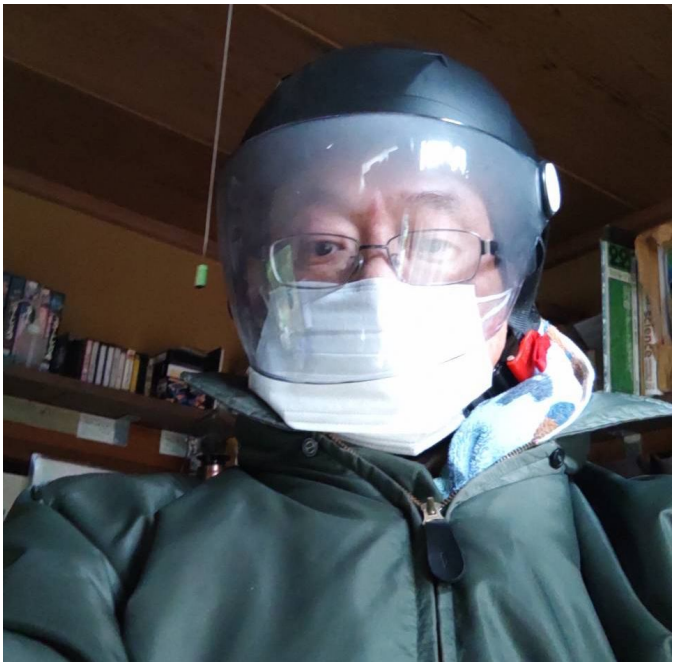
「日々の理科」（第 2937 号）　2022,-8,22

「スズメバチとの対決（５）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭
お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員
田中　千尋　Chihiro Tanaka

一回目の「自動車噴射作戦」は失敗した。しかし、「作戦 B」がある。もっと至近距離から噴射する作戦である。

巣に一番近い扉は勝手口だが、そこから噴射するのは危険で、しかも真下からになるので、自分も薬剤をかぶる危険もある。そこで。浴室の窓から斜めに噴射するという作戦だ。自動車とちがって、浴室の窓からの噴射は視界も悪いので、窓を結構開ける必要がある。急襲に気づいたハチが襲ってきて、浴室から入って来る可能性もある。私は完全武装することにした。



長袖の下着、長袖のセーター、その上に防寒ジャケット。下半身もスノー・オーバーズボンにスノーシューズ。頭にはフェイスシールド付のヘルメット、首には二重にタオルを巻き、マスクを二重にしている。ほとんど、あさま山荘事件の赤軍派の犯人のようだ。キイロスズメバチの毒針の長さは、せいぜい 5～6mm なので、この装備ならいかなることがあっても刺される心配はないだろう。

これが噴射中の様子。前回とは比較にならない。巣全体が薬剤の霧で覆われている。動画で見ると、ハチが次々と垂直に落下する様子が映っていた。

数分後、薬剤の霧が晴れても、巣の表面にはハチは 1 匹も残っていない。巣の表面にいたハチは全滅したようだ。しかしよく観察すると、巣口付近に何匹が動いていた。この「残党」は、噴射時にたまたま巣の中にいたハチだ。実は夜間でも、働きバチの中には巣の中で働いている者が一定数いる。幼虫や女王バチの世話をしているのだ。噴射した位置が、巣口とは反対側だったので、巣の中に薬剤が入りにくく、影響を免れたのだろう。しかし異常な気配に気づき、巣から出てきたのが、この「残党」なのだろう。